

4年 コミュニケーション英語 I 単位数:3単位

教科書:MAINSTREAM ENGLISH COMMUNICATION Second Edition I

副教材:MAINSTREAM ENGLISH COMMUNICATION Second Edition I WORKBOOK、音読英単語入門編、必携英単語 LEAP、Reading Express1、Reading Express2、Listening Essentials1.5、Listening Essentials2、多読用教材等

学習目標

<本校の英語科の目標>

- 国際的な感覚と教養を持ち、実践的に英語を活用してコミュニケーションを図ることができる。
- 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4技能について、偏りのない総合的な英語力を身につける。
- 語彙力・文法力・構文力に基礎をおき、幅広い英文を理解しそれに対する自分の意見を表現する。

<第4学年の目標>

- 英語の学習を通して社会のできごとに広く目を向け、主体的に学習する。
- 予習→授業→復習のサイクルを完全に定着させ、高校の学習に対応した学習法を確立させる。
- 大学入試改革を見据え、インプット・アウトプットの両方を重視し4技能の力をバランスよく身につける。
- 多様な文章に触れ、精読力・速読力を鍛えるとともに、日本語・英語で内容を説明できるようにする。(要約含む)
- リテリング、スピーチ、ディベート等を通して、自分の考えを英語で表現できるようにする。
- 英文読解や、アウトプットの活動を通して、科学的思考や現実の問題に取り組む力を身に着ける。(STEAM)

学習方法

- 大学入試改革を見据え、長文読解(精読・速読)、英作文(和文英訳、自由英作文)、リテリング、スピーチ、ディベート、リスニングなど様々な言語活動を通して、4技能をバランスよく伸ばしていくよう意識する。
- 日々の授業内容を大切に、適宜復習・反復練習を行う。
- ネイティブスピーカーの先生と、間違いを恐れず、直接英語でコミュニケーションをとる。
- 長文読解の際には、「目的に応じた読み方」を使い分けられるよう、精読(構文解釈・和訳など)と速読(スキミング、スキミング、wpm 記録など)の両輪で学習をすすめる。
- 文法学習を軽視せず、「なぜそうなるのか」、常に根拠を追及し論理的に深く考えながら、体系的に学習する。そうしてインプットしたものを、アウトプットすることも忘れない。
- 朝学習の時間に速読等の小テストを行い、実践力を養う。

評価の観点・方法

以下の観点に基づいて評価します。

観点①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしている。 予習・復習を行い積極的な態度で授業に参加しようとしている。				
観点②表現の能力	既習の文法事項を使いまとまった長さの英作文が書ける。 自分の意見を積極的に発言している。				
観点③理解の能力	英語の情報について正確に聞いたり読んだりできる。 読んだ情報をもとにして問題に正確に取り組むことができる。				
観点④言語や文化に対する知識・理解	語句や文に関する知識を身につけることができる。				
評価の方法／観点		①	②	③	④
授業の活動・態度の観察		◎	○		
ワークシート、ノート提出		◎	○	○	○
定期考査・小テスト			◎	◎	◎
スピーチ・リテリング等		◎	◎		

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項
1 学 期	・高校の学習方法(予習→授業→復習)を定着させる。 ・文構造を把握しながら精読できる。 ・スキミング、スキヤニングなどを活用しながら速読できる。 ・音の連結・同化等を意識し、英語らしい音声で音読する。 ・学習した文法や語彙を用いて自己表現できる。	※Lesson2 までは昨年度に既習 Lesson3 Lesson4 Lesson5	
2 学 期	・英文を意味のまとまりごとにとらえ、スラッシュリーディング、サイトトランスレーションを習得する。 ・日本語や英語で要約を書き、頭でも要約(リテリング)できる。 ・学習した文法や語彙を用いて自己表現できる。	Lesson6 Lesson7 Lesson8	
3 学 期	・ディスコースマーカーの役割、パラグラフの構成を理解し、長文読解や英作文、スピーチに応用できる。 ・精読と速読で、目的に応じた読み方ができる。 ・学習した文法や語彙を用いて自己表現できる。 ・「何となく」を脱却し、文法学習や問題演習の際には「なぜそうなるのか」根拠を他者に論理的に説明できる。	Lesson9 Lesson10	

学習のアドバイス

- 予習＝わかる・わからないの仕分け 授業で明らかにすべき内容を決める時間 必ず行う。
- 授業＝上記内容を解決し、復習すべき内容を決める時間 必要な情報はメモを取る。
- 復習＝授業内容を用いた反復練習とアウトプットで知識の定着を図る時間
- 繰り返し声に出して読んだり、手を動かして書いたりすることを丁寧にする。
- 定期考査・模擬試験等で間違えた/わからなかった部分は自分専用の最高の問題集である。必ず解き直しをする。
- 音読を大切にする。目だけでなく、手と口を動かす方が効果が高い。
- 質問しあえる雰囲気、教え合える仲間を作る。不明点は放置せず仲間や先生に相談・質問する。